

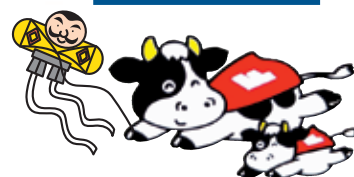
みるく情報

No.784

令和7年

1月

ふくおか



『太宰府天満宮 令和の大改修 仮殿への参拝客』

組合トピックス 1～10

支所長日記 15

色色問答 11～12

MOMOステーション 17

外部 13～14

令和7年1月15日 印刷
令和7年1月20日 発行

■発行所
ふくおか県酪農業協同組合
福岡市博多区博多駅前4-32-18

■編集兼発行人
波多江 孝一

新年のご挨拶



ふくおか県酪農業協同組合

代表理事組合長

中 島

清

あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、ご健勝なる新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、組合員の皆様方、関係機関・団体におかれましては、本組合・酪農事業の発展につきまして、格別なるご理解、ご指導、ご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

令和六年を振り返りますと、元日より能登半島地震が発生、日本海沿岸の広い範囲で津波が来襲したほか、土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊など、石川県を中心に大きな被害をもたらすなど、新年早々痛ましい出来事となりました。また八月には、南海トラフ地震臨時情報が始めて発表されるなど、わが国は地震大国であることを再認識させられたところ です。

七月のパリオリンピック、パラリンピックでの日本勢の活躍は記憶に新しいのではないのでしょうか。組合関係では、前組合長草場さんのお孫さん（草場龍治選手）が、パラリンピック車いすラグビーにおいて金メダリストとなり、大会後には組合に報告のため来訪、金メダルを披露していただきました。

世界情勢に目を向けますと、三年目に突いたロシアのウクライナ侵攻は、戦争の終結が見いだせない状況が続いており、更にはイスラエルとパレスチナの軍事衝突も長期化の様相を呈してきており、世界平和の実現には程遠い状況となっています。また、米国の大統領選挙では共和党のトランプ氏が再び咲くこととなり、これまでのグローバルイズムから米国第二主義へと回帰し、わが国が得意とする自動車産業等の輸出産業への影響は大きいとみられて

おり、農産物の輸出や、為替相場への影響など、不確定要素が多数存在し目が離せない状況にあります。

酪農を取り巻く状況は、日米の金利差及び日本の長期に渡る低金利政策が招いたといわれる為替の円安の影響を受け続けており、飼料をはじめとする酪農生産資材価格は高値安定を維持の状態にあります。このコスト高を完全に牛乳価格へ転嫁することができない状況のもと、指定団体以外の牛乳買い取り事業者である系統外の牛乳のシェアは拡大しつつあり、指定団体の乳価値上運動に水を差す形になっています。

また、本県では、わが国初の乳牛の届出伝染病「ランピースキン病」が十一月に発生、当初、発生農場は糸島市に限られていましたが、徐々に発生地域が拡大十二月には朝倉市まで拡大しました。当初は、本病の重症化リスクはそれほど高くなく治る病気と言われており、非発症牛の生乳出荷は可能であることから、通常の防疫対応を行っていましたが、わが国初の発生とのこともあり、近県の家畜市場より発生農場から二〇km圏内にある農場は市場出荷自粛の要請があるなど、組合員、発生地域の和牛繁殖農家への影響が甚大となってきました。このため、組合で

はできるだけ早く家畜市場が受入再開できるよう国や県、家畜市場との協議に参加、必要な情報を提供し、市場受入再開に向けた取り組みを行うとともに、組合理事会では、新規の発生がない状況を目指したランピースキン病ワクチン接種の推奨を決定しました。組合員の皆様におかれましては、ワクチン接種への協力と消毒、ウイルスを伝播させる吸血昆虫の防除対策を徹底し、本病の発症リスクを可能な限り軽減していただきますようお願いいたします。

乳価交渉について、九州生乳販連では西日本の指定団体と協調し、コスト高を吸収するに至っていない現状を踏まえ、令和七年度に向け飲用乳価の値上げ要請を乳業メーカーに対し行っています。加えて、中央酪農会議は、「経営環境の悪化等により指定団体が生乳を受託する酪農家が二〇二四年十月に二万戸を割った、将来的には需要を賄えなくなり輸入に頼らざるを得ない。」と警鐘を鳴らしており、酪生産基盤の維持のため、コストに見合った乳価値上げは悲願ですので交渉の行方を見守っています。

一方、改正畜安法施行後の需給調整の在り方について、国は令和六年四月に省令を改正、翌年度の予定数量に大きな変更

がある場合申し出期限が設定できるとしましたが、充分な対策とは言えず、更なる規律強化の検討をすすめてゆくとしています。また、指定団体と系統外との需給調整に関する情報交換会が令和六年は年八回行われ、飲用向けの投げ売りを防止して、乳製品への加工向けが重要等の議論を重ね、今後継続的に開催し議論を積み重ねるとありますが、酪農家間の不公平感の解消には至っておらず、今後の議論の方向性には注視する必要があります。

酪農経営支援策については、組合では酪政連と連携し、令和四年度から引き続き国、県や市町に対し酪農現場の窮状を訴え支援継続要請に努め、国、県、一部の市や町からも助成支援を実施していただくことになりました。財政状況が厳しい折、誠にありがとうございました。

さて、新年令和七年の十二支は「巳（へび）」、十干は「乙」、干支では「乙巳（きのとみ）」の年になります。「乙巳」（いっし、ともいう）の年に起きた歴史上の出来事には、大化の改新が始まった年、また、日露戦争が終結し日本の勝利が確定した年でもあります。時代が変わり、歴史の節目となっていることが多いといわれています。米国ではトランプ政権となり世界にどのような影響を与えるのかが注目され、何よりロシアとウクライナとの戦争等世界中の争いが早期に終息し、世界が平和を取り戻すことを期待します。また、本県で発生中のランピースキン病について、早期に終息させ、本県の酪農が新たな時代を迎えられるよう組合として積極的に関与し取り組んで行きたいと考えます。

酪農を取り巻く状況は、困難な時期が続いていますが、産みの苦しみと捉え、指定生乳生産者団体のみならず、農協系統外出荷者も含む全ての酪農家が協調した需給改善対策を行い、酪農関係者が一体となった酪農理解醸成活動や消費拡大運動などの取り組み強化することにより、酪農が将来性のある産業と目され、酪農家がそして国民の皆様が豊かで安心して暮らせる世界となるよう微力ながら前向きに取り組んで行きたいと考えております。

最後になりますが、本年も役員一同一体となり事業の推進に邁進してまいりますので、組合員、関係機関、団体の皆様におかれましては、旧年に倍するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

酪農業界が良い年となり、皆様が健康で幸せに過ごされますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

福岡県農林水産部長

中馬 俊介



あけましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

酪農は、牛乳・乳製品の安定的な供給を通じ、私たち県民の豊かな食生活や健康を支える大きな役割を果たしています。日々、酪農振興にご尽力いただいております生産者や関係団体の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

さて、最近の酪農を取り巻く情勢は、円安や国際的な穀物需給のひっ迫による飼料価格の高止まりに加え、酪農家の重要な副収入である肉用子牛価格の低迷など、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような中、昨年十一月に熊本県で開催されました、第八回九州連合ホルスタイン共進会では、本県からの出品牛が最高位のグランドチャンピオンを受賞するなど、優秀な成績を収められました。これもひとえに、生産者及び関係者の皆様のご尽力の賜物であり、深く敬

意を表する次第です。入賞されました方々に心からお慶びを申し上げます。

本年十月には、第十六回全日本ホルスタイン共進会が北海道で開催されます。全国からよりすぐりの乳牛が集う中、福岡県の乳牛の優秀さをアピールする絶好の機会であります。

県としても、飼養規模拡大に必要な施設・機械の整備や、ゲノムを活用した乳牛の改良等による酪農の生産基盤の維持・強化を進めるとともに、酪農家の皆様が共進会に優良な乳牛を出品いただけるよう、出品に必要な支援をはじめ、牛群検定データを活用した現場指導などに取り組んでまいります。

また、昨年には国内で初めてとなる牛の届出伝染病のランピースキン病が、本県で発生しました。

県におきましても、今後とも関係機関や団体との連携を一層強化し、ランピースキン病のまん延防止に取り組んでまいります。生産者の皆様におかれましても、引き続き、飼養衛生管理基準の遵

守とともに、異常の早期通報に万全を期していただきますようよろしくお願いいたします。

結びに、ふくおか県酪農業協同組合並びに組合員の皆さまが一丸となつて、酪農振興に邁進されますようご期待申し上げますとともに、本年が、皆さまにとつて素晴らしい一年となりますよう心から祈念しまして、新年のご挨拶いたします。



新年のご挨拶

日本酪農政治連盟福岡県支部連合会

会長 村上 篤



あけましておめでとうございます。盟友の皆様におかれましては新たな気持ちで良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、日本酪農政治連盟の活動に多大なご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

また、昨年十月に実施されました第五十回衆議院議員選挙の選挙結果について、与党の過半数割れという残念な結果となりましたが、当支部が推薦した候補者の多数が当選することが出来ました。盟友の皆様が多大なご協力ありがとうございました。

さて、世界、国内の情勢を見ますとロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの紛争等おさまりが見えず、原油や天然ガス等のエネルギー資源の供給不安を招いています。また、日米の政策金利格差による円安進行ですが、日銀のマインス金利政策の終了により金利格差が縮小し、円高に傾くことを期待しましたが、日銀はすぐに利上げに動かず金利差がしばらく続くという見通しから

円安傾向で推移しています。

このような経済状況により酪農業界においても、飼料、燃料価格をはじめあらゆる資材価格の高騰、さらに、国内における物流・運送業界の「二〇二四年問題」による輸送コストの上昇等、酪農経営を大きく圧迫している状況が続いており、指定団体では、生乳の需給改善対策の取組みを実施し、乳価改定交渉を行い、令和六年四月から学校給食向け用途一キログラム十円の引き上げが行われ、また、令和七年度改訂に向けても交渉が行われています。

一方、日本酪農政治連盟は、各県組織と連携し、牛乳乳製品の需給調整機能の強化、自給粗飼料生産基盤強化並びに今後の担い手確保に繋がるよう、現行措置の全ての支援対策の継続、拡充を基本とするとともに、優先事項として、①酪農生産資材価格高騰に対する支援策②生乳の需給改善対策の継続③将来の生産資材価格の急速な高騰に対する支援策の検討④国産飼料の生産拡大・利活用促進に対する支援施策の強化⑤

改正畜安法の運用改善⑥酪農経営の改善に向けた支援⑦有害鳥獣被害対策について、国へ要請を行いました。

また、当支部では、ふくおか県酪農協と連携し、県や市町に対して経営支援対策の要請を行いました。

酪農は基礎的食料の安定的供給と地域社会の維持等を担う必要不可欠な産業であり、減少に歯止めをかける必要があり、後継者にとつて魅力を感じる産業でなければいけません。

それに対しまして酪政連は、継続してふくおか県酪農協と連携を強化し、安全・安心な食料の供給はもちろんのこと、国土・環境の保全、雇用創出等の多面的な機能などの議論を深める運動、指定団体が行う酪農再生産可能な乳価獲得の交渉への継続的な支援活動、牛乳・乳製品消費拡大運動、党派を超えて全国団体・関連団体と連携した酪農支援施策の要請活動等に取り組んで参ります。

最後になりましたが、今回発生しましたランピースキン病が早急に終息することを願いますとともに、盟友の皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

わが国初ランピースキン病発生!!

わが国初のランピースキン病が、十一月初旬本県の酪農場において発生しました。

当初は、届出伝染病で死亡率は低く治療する病気とこのため、感染牛の隔離と牛舎消毒及び殺虫剤散布による予防策を講じていましたが、瞬く間に近隣農場に伝播してしまいました。このことから、県に

対しワクチン接種を要望、県知事よりワクチン接種の命令が発せられはしましたが、ワクチン接種牛及び接種牛から生まれた子牛までも、アメリカへ牛肉輸出がで

きないこととされ、また、アメリカ向け輸出牛肉取扱施設（食肉センター）への出荷ができない状況となり、ワクチン接種は進まない状況となりました。その後、アメリカとの協議により、ワクチン接種牛から生まれた子牛はワクチン接種牛としないがワクチン接種県（現時点では福岡県のみ）由来の牛は、ワクチン接種牛とみなすと改められています。

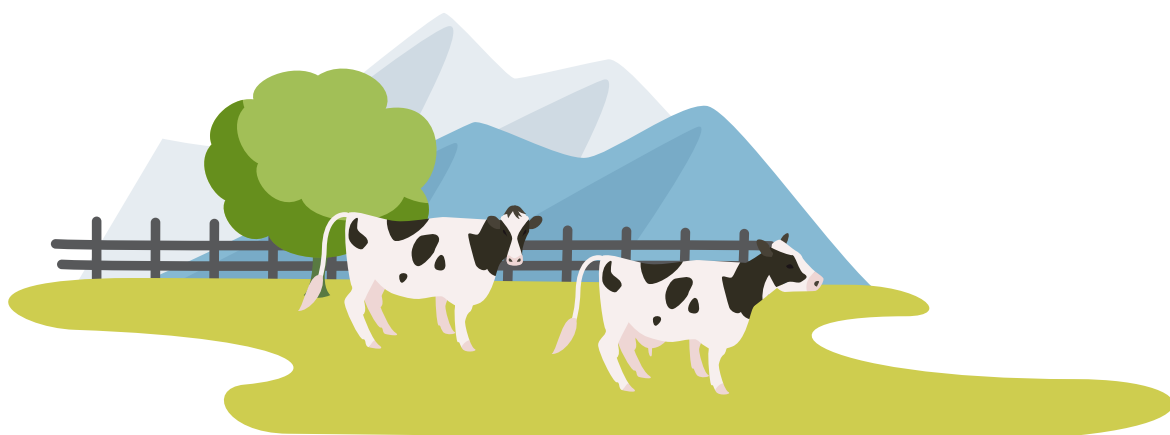
本病は、生乳出荷については、感染牛以

外の同居牛の出荷は認められているものの、家畜市場は対米問題もあり、発生農場より半径二〇km以内の農場からの市場出荷の自粛を求められ、本県の畜産業に大きな影響を与えています。

このため、一刻も早く本病のまん延を防止する必要に迫られ組合としてワクチン接種を推奨、現時点ではワクチン接種の効果もあつてか、感染牛はほばいない状況になっています。

しかしながら、本病はサシバエなどの吸血昆虫により媒介すると言われていることから、温かくなる春先に向け、ワクチン接種はもとより、牛舎の消毒、吸血昆虫対策には万全を期していただきますようお願いいたします。

最新のランピースキン病に関する情報は以下の農水省HPを参照ください。



第8回 九州連合ホルスタイン共進会開催

福岡支所 松永 慎也さん グランドチャンピオン

去る11月3日、第8回九州連合ホルスタイン共進会が、熊本県家畜市場にて開催されました。天候も肌寒さは有ったものの、晴天となり、125頭の出品がありました。

審査員には北海道ホルスタイン農業協同組合 審査部長の稲山智明氏をお招きし、スピーディーなジャッジの下に、各部門の乳牛毎に適切な審査講評がなされました。

グランドチャンピオンには福岡県 松永 慎也さんの「MSF DM プロントダーミア ET」、ジュニアチャンピオンには熊本県 村田瑞晃さんの「スマイリー クララ ビーラム キャンプ」が選出されました。以下、名誉賞は次の通りとなりました。



松永 慎也さんグランドチャンピオン牛
MSF DM プロント ダーミア ET

部 門	所 属	出品者名(敬称略)	牛 名	賞	
第1部	鹿児島県	尾曲 敏和	ミルキツシュ ミラクル ジャステイス チャリティ	名誉賞	
第2部	鹿児島県	鹿屋農業 高等学校	KANO チャガ マークスマン ビリー	名誉賞	
第3部	熊本県	(株)有田牧場	KM サイドキツク ジャムパン	名誉賞	リザーブ ジュニアチャンピオン
第4部	福岡県	中村 毅	ビューティガール サイドキツク エンタルピー	名誉賞	
第5部	熊本県	村田 瑞晃	スマイリー クララ ビーラム キャンプ	名誉賞	ジュニアチャンピオン
第6部	宮崎県	川原 澄広	SK リバー サム パーマー	名誉賞	
第7部	福岡県	内田健二郎	ランフオーラクト カルテット チーフ ET	名誉賞	リザーブインター ミディエイトチャンピオン
第8部	熊本県	(株)有田牧場	ダビドソン レデイ ジャガー	名誉賞	リザーブチャンピオン、 インターミディエイトチャンピオン
第9部	宮崎県	坂之下 竜	LYUS マーシー エレナ	名誉賞	
第10部	宮崎県	田中賢志郎	SFT GC ドアマン メリツク	名誉賞	
第11部	熊本県	松島 太一	ハツピーグローリー ドアマンエメラルド	名誉賞	
第12部	福岡県	松永 慎也	MSF DM プロントダーミア ET	名誉賞	グランドチャンピオン、 ジュニアチャンピオン

これからも是非積極的な共進会への参加をお願いいたしますとともに、乳牛改良を通じて酪農経営の向上を目指しましょう。

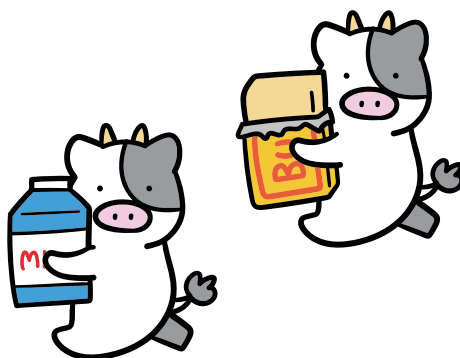
畜魂供養祭開催

十月三十日(木)組合本所において、住吉神社の神官のもと、本組合の役職員、九販連の役職員が参列し畜魂供養祭が執り行われました。組合長をはじめ各代表の方により玉串奉奠(たまぐしほうてん)が行われ、この一年間私たちのタンパク補給源としての尊い生命を犠牲にして乳と肉を提供し、酪農に貢献した牛達に深い感謝を表し、その御霊を祀りました。



第五十回 ふるさと久留米農業まつり

十一月九日(土)十日(日)、久留米百年公園にて第五十回ふるさと久留米農業まつりが開催されました。ミルク広場にて牛乳無料配布、バター作り体験、模擬牛の搾乳体験や子牛体重当てクイズ等のイベントを行い牛乳の消費拡大運動を行いました。また、牛乳・乳製品などの販売には長蛇の列ができ、二日間とも売り切れ続出!!大盛況のうちに終了しました。



JAまつりーIN三輪

十一月三十日(土)JA筑前あさくら三輪支店にて
 ”JAまつりーIN三輪“が開催されました。朝倉女性部として参加し、牛乳の早飲み競争、牛乳無料配布、バター作り体験、牛乳ドーナツ棒販売等、消費拡大活動を行いました。例年よりも一ヶ月遅い開催の為、風も冷たい寒空の中、牛乳早飲み競争に参加してくれた小学生達に感謝!!イベントを盛り上げてくれました。



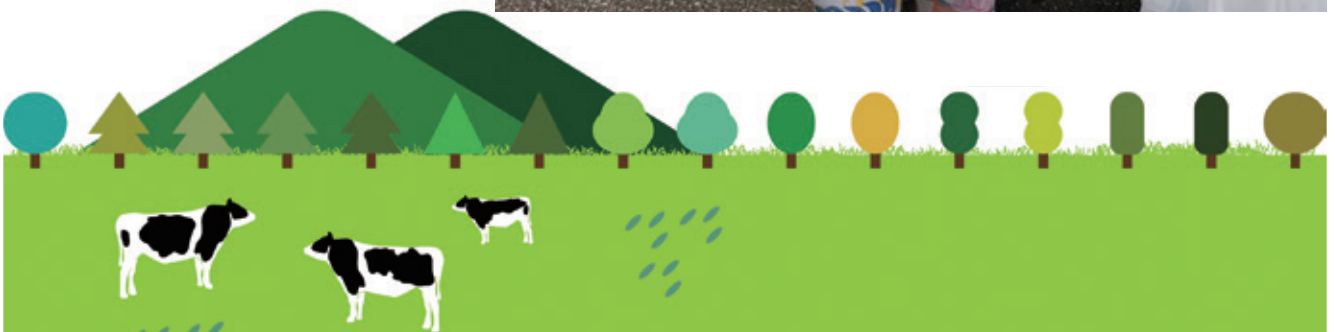
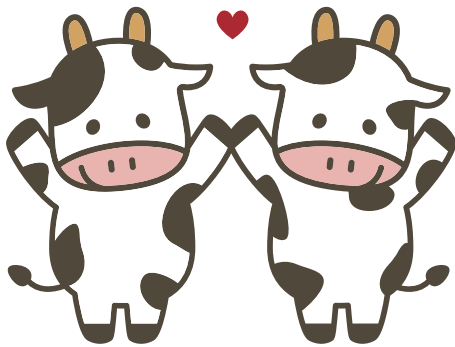
福岡県農林水産まつり 福岡県産牛乳と乳製品をPR♪

十一月二日(土)、三日(日)に、福岡市中央区の天神中央公園にて「福岡県農林水産まつり 八女茶の宴」が開催され多くの人で賑わいました。本組合からも参加し、県酪オリジナル乳製品や牛乳・ヨーグルトなどの販売を行い、牛乳の消費拡大を図りました。



福岡市農林水産祭り

霜月 まだまだ暖かい中、十一月九日(土)福岡市鮮魚市場会館周辺において、福岡市農林水産祭りが開催されました。お天気はとつてもよくて、お客様も朝早くからお目当てのお店の前に並んで、沢山お買い物をされていました。組合も新商品のカップアイスやバターを販売し、大盛況でした。物価高騰の中、農林水産まつりでは目玉商品も数多く、みんな活気にあふれていました。今後益々、消費拡大を推進します。



今後の酪農に必要な仲間作り

残念なことに酪農家の減少が続いています。つい先日、全国で1万戸を切ったとの報道がありました。日本の農業全般に言えることですが、農家戸数の減少は高齢化や後継者がいないというのが大きな要因となっているところです。酪農も同様な状況ですが、経営状態の悪化が離脱の一番の原因になっています。困難な状況はいろいろありますが、今一度、酪農について考えてみたいと思います。

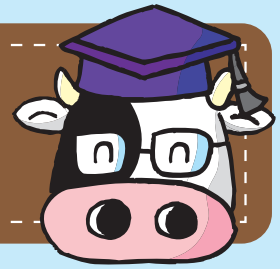
酪農家には仲間がいます。またその仲間は他の業種とは異なり深い絆で結ばれています。以前は地域ごとに酪農組合がありました。現在は広域になって仲間意識が薄くなったと思われていますが、今でも旧組合単位での結びつきは強く、その仲間同士の交流は続いています。広域になった組織においても新たな仲間同士の結びつきがあり、青年部や婦人部での交流も盛んに行われています。またその輪が全国的に広がっているのも事実です。話は変わりますが、酪農家を視察する際、訪問された牧場は隅から隅まで余すところなく見せて情報を公開します。これは酪農ならではの特徴です。視察に限らず仲間との交流は酪農界では珍しいものではありませんが、養鶏や養豚、肥育など他の畜産業界ではあまり見る光景ではありません。酪農は牛乳という規格に合った生産物を皆で作る特有のものだといえます。地域の皆で一定の規格の生産物を作ることで共有意識が高まり、横のつながりが広がっていったのだと思われます。当初、地域の仲間と一緒に発展していくために生まれた酪農組合は、今では変遷して組織は異なっていますが、乳価交渉や政策に関与できるまで大きな組織になってきています。酪農家同士の輪が広がっているのは事実です。酪農家の仲間だけではなく、地域での耕種農家との交流も酪農家が中心となっているところが多くあります。たい肥散布やワラ収集、野菜クズや規格外野菜などのエコフィード利用、さらに耕作しなくなった圃場での牧草栽培にも酪農家は関与しています。地域での仲間作りにも酪農家の姿がみられ、パワーのある仕事を担っています。

酪農家同士や地域での交流はもちろん、乳業メーカーや消費者との交流にまで仲間づくりの輪は広がっています。特に消費者との交流は、これから先の牛乳・乳

製品の消費拡大や酪農理解醸成につながります。生産者と消費者の間には、集乳業者、乳業メーカー、配送業者、販売店等、多くの見えない壁があるのは事実ですが、酪農家の思いが直接伝わるスムーズな関係、いわば消費者との仲間づくりが今後求められてきます。酪農家はただ乳を搾るだけではありません。飼料を作る畑や草地、田んぼの管理による環境維持や美化、景観保持、牛糞たい肥の供給による循環型農業の維持など、いろいろな面で地域に貢献している事実があります。これらの情報はもちろん、経営の厳しい時にはその状況を発信していくことも消費者との距離を縮めるうえで大切なことです。さらに哺乳体験や搾乳体験、牧場見学等の乳牛とのふれあいの場は消費者の癒しにつながっていくのも事実です。特に若い世代に体験してもらうことで酪農への理解がさらに深まります。

今後、時間はかかりますが、このような輪を広げていけば消費拡大や乳製品の価格醸成につながると思われます。さらに消費者サイドからも、このような役割を担う酪農家の数がこれ以上減らないような応援や推しが出てくることが期待されます。また、新たに酪農を始めたい人が現れるような取組にもつながっていけばいいなと思います。酪農後継者の確保に家族間での経営継承が少なくなっている昨今、第三者継承に活路が出ています。消費者への情報発信で酪農のすばらしさを伝えることができれば、酪農に興味を持つ人たちが増えてきて、第三者継承への弾みとなってくことは十分あり得ます。消費者への情報発信は、今や酪農が生き残る上で大きな要因となっています。これ以上酪農家が少なくならないことを願っています。





ゲノム情報を生かした乳用牛の改良

④【乳用牛改良は新たな段階へ！】

わが国の乳用牛改良が多くの課題を抱える中、関係団体が同じ問題意識や方向性を持ち一体となって課題解決に取り組むため、(独)家畜改良センター、(一社)日本ホルスタイン登録協会、(一社)ジェネティクス北海道、(株)十勝家畜人工授精所、(一社)家畜改良事業団は、令和2年11月に「乳用牛改良推進協議会」を設立しました。乳用牛改良推進協議会では、都道府県の乳用牛改良関係者と連携して、我が国の乳用牛改良を推進しています。具体的には、国内ゲノミック評価の改善と普及に努め、遺伝的能力評価値等の情報発信を積極的に行いつつ、優れた国産種雄牛の作出とその利用拡大等に取り組めます。本年度は、7月14日に開催された「乳用牛改良推進会議」において決定した、「2023年度乳用牛改良推進実施計画」に基づき取り組みを進めることとなりました。

その基本的方針は、①2023-8月評価から、(独)家畜改良センターが行うゲノミック評価(以下、国内ゲノミック評価)の参照集団に雌牛のデータを追加し、信頼度の向上を図ります。②国内ゲノミック評価の進展を踏まえ、「ヤングサイア」と「より信頼度の高い検定済種雄牛(ヤングサイアとしての一般供用により、多数の娘牛を得た種雄牛)」の活用により、乳用牛改良の加速化を図ります。③後代検定における調整交配の目的を、これまでの「検定済種雄牛作出のための検定娘牛の確保」から、「国内ゲノミック評価の信頼性の維持・向上のための最新世代のデータ(血統情報、SNP情報、牛群検定、体型審査)収集」に見直します。④国内ゲノミック評価の進展とヤングサイアの活用を踏まえ、後代検定に参加するヤングサイアを厳選(段階的に絞り込む)しつつ、後代検定協力農家の雌牛のSNP情報の収集を拡大することで、後代検定の効率化を進めます。⑤ゲノミック評価の公式評価(年3回)や月1回の中間評価に加え、2023-8月評価より「速報値」を週1回提供することで、ゲノミック評価結果の農家への提供を、申し込みから1か月程度に迅速化します。⑥分娩形質(難産率・死産率)のゲノミック評価を新たに開始するとともに、A2(β カゼイン2型)などの遺伝子解析情報の充実を図

ります。⑦国内で乳用牛改良を行う意義や、国内ゲノミック評価とヤングサイアに対する理解を深めるため、わかりやすい資料の作成や情報発信等を行い、さらに関係者への説明や意見交換の場なども設定することで理解を深めるための取り組みを行います。

このように、国内ゲノミック評価の進展を踏まえ、乳用牛改良は新たな段階へと変わっていきとしています。その基礎となる国内ゲノミック評価の信頼性を維持・向上させていくためには、最新世代の情報、すなわちヤングサイアの娘牛等の情報を継続的に収集することも必要です。乳用牛改良をより効果的・効率的な仕組みに見直していくためには、ゲノム情報の役割はこれまで以上に重要なものとなっていきます。

乳用牛改良推進実施計画の基本的方針

【①ゲノミック評価の改善】(独)家畜改良センターが行うゲノミック評価(以下、G評価)のリファレンス集団に、雌牛を追加し、信頼度の向上を図ります。

【②ヤングサイアの活用】国内G評価の進展を踏まえ、「ヤングサイア」と「より信頼度の高い検定済み種雄牛(ヤングサイアとしての一般供用により、多数の娘牛を得た種雄牛)」の活用により、乳用牛改良の加速化を図ります。

【③調整交配の再構築】後代検定における調整交配の目的を、これまでの「検定済み種雄牛作出のための検定娘牛の確保」から、「国内G評価の信頼性の維持・向上のための最新世代のデータ(血統情報、SNP〈個体間で1カ所だけ異なる塩基配列〉情報、牛群検定、体型審査)収集」に見直します。なお、娘牛生産・配置の仕組みは、現行を基本とします。

【④後代検定の効率化】国内G評価の進展とヤングサイアの活用を踏まえ、調整交配を行うヤングサイアは厳選します(検証を行いつつ段階的に絞り込む)。また、ALIC事業を活用し、調整交配協力農家でのSNP情報の収集を拡大します。

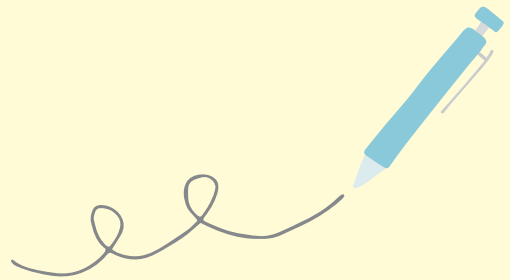
【⑤雌牛G評価の迅速化】雌牛のG評価結果の農家への提供を、申し込みから1カ月程度に迅速化します。

【⑥情報の充実】分娩形質(難産率・死産率)のG評価を開始するとともに、A2(β カゼイン2型)など遺伝子解析情報の充実を図ります。

【⑦理解を深めるための取り組み】国内で乳用牛改良を行う意義を理解し、国内G評価とヤングサイアに対する理解を深めるため、わかりやすい資料の作成や情報発信等をこまめに行います。関係者への説明や意見交換の場なども設定します。

支所長日記

福岡支所 新堀 啓子



こんにちは、令和6年度から支所長に就任して、気づけばもう一年が経とうとしております。時が経つのが最も早く感じた1年でした。その状況下、11月初旬に日本で初めてランピースキン病が管内で確認されました。それからは、日々状況が変わり、対応に追われる毎日を過ごしております。今回の病気では届出伝染病であるが故の、自主廃棄、自主淘汰を求められます。改めて自主とは意味は何だろうと調べてみました。「他からの干渉や保護を受けず、独立して事を行うこと」とありました。病気発生から約二ヵ月が過ぎようとしています。発症した牛からの生乳の廃棄を自主的におこなう＝その間は収入がない発症農家にとっては苦渋の選択です。子牛の滞留など先行き不安がつきません。飼料高騰による酪農家戸数の減少などなかなか明るい話題がありませんが、少しでも酪農情勢がよくなっていくようお願いばかりです。

話は変わりますが、今年は巳年です。「巳」は蛇のイメージから「復活と再生」を意味するそうです。脱皮し強く成長する蛇のように大きく成長できたらと思います。

結びに、組合員あつての県酪協、そして私たち職員です。

皆さまのお力添えになれるよう日々精進してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

次回の支所長日記には状況が沈静化し明るいお話を記載できればと思います…(願うばかりです)



「バルククーラー保険」のご紹介

～～万が一の事故の備えとして～～



全国酪農協会

【概要】

酪農業賠償責任補償制度(ローリー保険)は、合乳後の他人への損害を補償しますが、ご自分の損害は補償されません。「バルククーラー保険」は、バルク内事故により破棄されたものが対象です。破棄された生乳代金の9割または5割を補償します。

生乳への異物混入や洗浄水・血乳・抗生物質の混入、あるいはバルククーラーのスイッチ忘れによる細菌数の増大などで生乳を破棄した場合に補償の対象となります。地震や水災により生乳を破棄した場合は補償対象外となります。

保険期間(ご契約期間)中における事故が1回目の場合は損害額の9割を保険金としてお支払いします。また同一保険期間(ご契約期間)中に同一のバルククーラーにおける事故が2回目以降の場合は損害額の5割を保険金としてお支払いします。

酪農業賠償責任補償制度とは異なり、ご加入は酪農家さんの任意となります。

＜バルククーラー保険の対象事故例＞

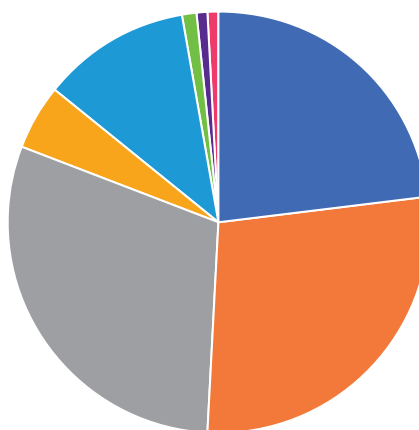
- ① 抗生物質を投与した牛から誤って搾乳してしまい、バルククーラー内で合乳してしまった。
- ② スイッチを入れ忘れ、バルククーラーの温度が上昇し細菌数が増大した。
- ③ 誤って血乳を合乳してしまった。
- ④ バルククーラーに異物が混入し、生乳が汚染された。

バルククーラー事故原因

	割合
抗生物質	23.3%
細菌数	27.8%
血乳	29.9%
異物混入	5.1%
洗浄水	11.3%
凍結	1.2%
バルク故障	0.9%
その他	0.6%

バルククーラー保険の事故原因

- 抗生物質
- 細菌数
- 血乳
- 異物混入
- 洗浄水
- 凍結
- バルク故障
- その他



【掛金】

所有するバルククーラーの容量により掛金が変わります。保険金額は5万円単位でバルククーラーの生乳保管量で設定します。また、ご希望により廃棄費用等の取片付け費用をセットすることができます。2年目以降の掛金については、事故件数により決定されます。

酪農業賠償責任補償制度と異なり、バルククーラー保険は、酪農家さんごとの任意加入となっています。現在、ふくおか県酪農協では3割程度の加入となっており、他の都府県と比べると加入が少ない状況です。厳しい環境が続いていますが、このような厳しい時こそ、万が一の事故に備えてご加入を考えてみてはいかがでしょうか。

ご興味のある方、掛金を調べてみたい方は、ご遠慮なく組合支所までご連絡願います。

新年のご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、旧年中は、多大なるご尽力をいただき、ありがとうございました。本年も、青年女性会議の活動に努めてまいりますので、より一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

委員長 井手口明博

喪中の為、新年の挨拶は控えさせていただきます。

『二〇二五年、酪農業界を始め、世の中もつと良くなる』と皆で心に決め、意識から変えていきましょう！

副委員長 片峰多恵子

新年明けましておめでとうございます。

去年はコロナが明け、皆様のおかげでスポーツ交流会やふくおか県酪農業発表大会など開催することができました。

新年を迎えましたが、酪農業界はまだ様々な課題に直面しております。この難局を乗り越え、発展していける年になりますよう願っております。

副委員長 穂坂賢太郎

あけましておめでとうございます 本年もよろしく申し上げます

代表理事組合長	副組合長理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	代表監事	監事
中島 清	村上 篤	江藤 秀樹	小島 興人	石橋 義則	吉田 政弘	中野 実夫	中垣 広之	波多江 孝一	松隈 進	羽野 浩	

人事異動

I. 採用 (令和6年12月1日付)

氏名	新所属 (職階級)
坂口 巧	主事 酪農部

II. 採用 (令和7年1月1日付)

氏名	新所属 (職階級)
藤川 綾乃	主事 酪農部

初日の出

愛牛の健康

祈ります

新生ライオン

